

耐久資本の移転と処分^{*}

田原 英典[†]

概要

Goolsbee (1998) では資本の退出について、航空機のデータを用いて経済要因が影響していることを示している。本研究も航空機のプロフィールデータを用い、Goolsbee (1998) で検証されなかったリースが資本の退出にどのように影響しているか、また騒音規制が行われた際に資本の退出がどのように行われているのかを分析することが目的である。さらに、本研究では退出をある国から別の国への「移転」と「処分」に分けることで、中古取引や処分への影響についても検証する。

分析の結果、今期のリースによる来期の処分確率は減少する傾向があることが分かった。一方、リースは退役の確率を高めることが分かった。これにより、リース元は再リースや中古売却を行い、取引機会が増加させることが分かった。リースと機体年齢の関係を見ると、機体年齢が高いほど処分されやすく、機体年齢が若いほど移転されやすい傾向にあることが分かった。

騒音規制について、アメリカでは Stage2 に該当する機体は処分確率が上昇し、移転はされない。Stage3 機は逆に処分確率が下がり、退役の確率も下がる。一方、EU では処分ではなく第3国へ移転させる傾向にあることが分かった。

Keywords: 耐久資本, 退出, スクラップ, リース, 騒音規制

^{*} 本研究は筆者個人の見解に基づくものであり、所属元の公式見解を示すものではない。

[†] 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 経済政策部。